

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：34310  
研究種目：基盤研究(C)（一般）  
研究期間：2019～2022  
課題番号：19K01797  
研究課題名（和文）わが国における近代銀行制度の成立過程

研究課題名（英文）How has Japanese Banking System Established?

## 研究代表者

鹿野 嘉昭 (Shikano, Yoshiaki)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：60241767

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：明治期に整備された近代銀行制度の形成過程を文献資料および各種データを利用して明らかにするべく研究を進め、「日本近代銀行制度の成立史」（東洋経済新報社、2023年）を刊行した。もう少し具体的にいうと、江戸時代の大坂で普及した両替商金融の実際について述べた後、明治初年に殖産興業政策のなかで創設された為替会社の意義と限界、さらにはその破綻処理を経て、国立銀行制度が整備されるに至った背景や整備状況を検討するとともに、明治9年の条例改正により日本に近代銀行制度が根付くようになった事由を明らかにした。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの間、長年にわたって両替商、為替会社および国立銀行という区分のなかで個別に実施されてきた研究を近代銀行制度の整備過程という研究課題のなかで捉え直し、そうした動きを統一的な観点から分析したことが学術的意義として指摘できる。そうした成果は「日本近代銀行制度の成立史」という研究書の刊行を通じて広く公開され、研究成果を社会に還元するという役割を果たしたところに社会的な意義が見出される。

研究成果の概要（英文）：I conducted research to clarify the formation process of the modern banking system established in the Meiji period, and published "A History of Banking in Japan: From the Edo Period to the Early Meiji Period" (Toyo Keizai Shimposha, 2023). To be more specific, after describing the reality of money changer finance that spread in Osaka in the Edo period, I discuss the significance and limitations of the exchange bank established in the early Meiji era as part of the policy to promote new industries, as well as how to deal with its bankruptcy. In addition to examining the background and development of the national bank system, I clarified the reasons why the modern banking system took root in Japan due to the revision of the ordinance in 1877.

研究分野：金融史

キーワード：両替商 為替会社 国立銀行条例 国立銀行 明治9年国立銀行条例改正

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、国立銀行制度というわが国における近代銀行制度の形成過程について、伝統的な史料の解釈にとどまらず、金融制度論、銀行経営論という従来になかった視点のほか、海外投資家による評価といったグローバルな視点も加味して分析し、国立銀行制度史研究における新たな地平を拓くことを目指すものである。そして、そうした分析の結果、国立銀行制度の創設当初、政府の期待に反して国立銀行の設立が4行にとどまった背景が明らかにされたり、ガリバーであった第一銀行とその他の銀行の間では経営状況や克服すべき課題が異なっていたことが確認されたり、明治9年の国立銀行条例改正に伴って盛り込まれた金禄公債による資本金払い込み容認や国立銀行券の発行限度額の引き上げが国立銀行の設立ラッシュをもたらすとともに、事実上の資本蓄積を促し、その後における重化学工業化の発展の礎を形成したりしたことが示されることが期待される。

### 2. 研究の目的

本研究は、銀行制度の機能を分析視角の中心に据えて、明治4年に創設された国立銀行制度という近代日本における銀行制度の形成過程、およびそれが日本経済の発展にどのようなかたちで寄与したのかについて総合的に検証しようとするものである。その際、これまでの研究成果を踏まえ、国立銀行制度の機能や国立銀行の経営状況について、金融制度論、銀行経営論のほか海外投資家による評価といったグローバルな視点も加味して多様な観点から分析し、国立銀行制度史研究における新たな地平を拓くことを目指す。もう少し具体的にいうと、国立銀行制度の創設に際し大蔵省内において交わされた銀行論争(明治4年の銀行論争)での争点を問い直したり、国立銀行の創設が当初4行にとどまった背景を分析したりする。次いで、明治9年の条例改正前における国立銀行の経営実態を明らかにするとともに、それが条例改正に及ぼした影響や、条例改正が国立銀行の設立ラッシュを促すことになった背景等について、史料の解説にとどまらず、金融論や銀行経営論の議論を援用して分析したりすることを狙いとする。

### 3. 研究の方法

本研究では、先に掲げたように、明治4年の銀行論争の実相、国立銀行の創設が当初4行にとどまった背景、明治9年の国立銀行条例改正までの時期における国立銀行の経営の実際、および条例改正が国立銀行経営に及ぼした影響、について3年かけて分析することにしてきた。その際、海外投資家による評価といったグローバルな視点も加味するべく、英国・ロンドンの国立公文書館への訪問を2回にわたって行うことを企図していたが、コロナ禍で1回にとどめざるを得なかった。また、そうした研究課題を達成するべく、主たる文献である『明治財政史』、『大蔵省銀行課報告』などの国立銀行制度にかかわる箇所を読み直し、先行研究において見逃された史料や論点を見出すとともに、そうした文献に収録された国立銀行の財務諸表を分析して、明治9年の国立銀行条例改正前後における国立銀行の経営実態を明らかにすることにしたい。

### 4. 研究成果

以上のような目的を達成するべく、先に記した研究方法に基づき研究を進めた結果、4年間で9本の論文(うち査読付は3本)を刊行した。そして、これらのうち銀行制度に直接関連する論文に加えて、これまで行ってきた江戸時代の両替商金融、為替会社の経営状況と破綻処理に関する研究と合わせて、「日本近代銀行制度の成立史」(東洋経済新報社、2023年)という専門書を刊行した。もう少し具体的にいうと、江戸時代の大阪で普及した両替商金融の実際と機能について述べた後、明治初年に殖産興業政策のなかで創設された為替会社の意義と限界、さらにはその破綻処理を経て、国立銀行制度が整備されるに至った背景や整備状況を検討するとともに、明治4年の大蔵省内での銀行のあり方にかかわる論争を経て国立銀行条例が制定されるに至った事情を明らかにするとともに、明治9年の条例改正によ

り日本に近代銀行制度が根付くようになった事由を明らかにした。このように本研究の場合、これまでの間、長年にわたって両替商、為替会社および国立銀行という区分のなかで個別に実施されてきた研究を近代銀行制度の整備過程という研究課題のなかで捉え直すとともに、そうした動きを一つの流れとして統一的な観点から分析したことが学術的意義として指摘できる。加えて、研究成果は「日本近代銀行制度の成立史」という研究書の刊行を通じて広く公開され、研究成果を社会に還元するという役割を果たしたところに社会的な意義が見出される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 45
2. 論文標題 明治9年の国立銀行条例改正	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本金融学会『金融経済研究』	6. 最初と最後の頁 66 88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 73
2. 論文標題 明治9年の条例改正後における国立銀行の経営状況	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社大学『経済学論叢』	6. 最初と最後の頁 511 557
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 72
2. 論文標題 伊藤博文の金本位制建議はなぜ受け入れられたのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済学論叢	6. 最初と最後の頁 295 324
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 24
2. 論文標題 「両・分・朱」の世界から「円・銭・厘」の世界へ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 83 117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 42
2. 論文標題 再考：明治4年の銀行論争	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金融経済研究	6. 最初と最後の頁 21.45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 53
2. 論文標題 再考：幕末における金貨の大量流出	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済学論叢	6. 最初と最後の頁 1,20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 71
2. 論文標題 なぜ国立銀行の創設は4行にとどまったのか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済学論叢	6. 最初と最後の頁 123.145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 2023
2. 論文標題 文久遣欧使節、改税約書と新貨条例	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 97,125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 巻 74
2. 論文標題 貿易収支、洋銀相場と金銀貨の流出：金本位制から「紙幣専用ノ制」への 変容	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済学論叢	6. 最初と最後の頁 109,155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 鹿野嘉昭
2. 発表標題 再考：幕末における金貨の大量流出
3. 学会等名 日本金融学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鹿野嘉昭
2. 発表標題 明治9年の条例改正後における国立銀行の経営状況
3. 学会等名 日本金融学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鹿野嘉昭
2. 発表標題 明治9年の国立銀行条例改正
3. 学会等名 日本金融学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鹿野嘉昭
2. 発表標題 いわゆる三井銀行の「ドル買い事件」について
3. 学会等名 日本金融学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岩橋勝編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 貨幣の統合と多様性のダイナミズム	

1. 著者名 鹿野嘉昭	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東洋経済新報社	5. 総ページ数 365
3. 書名 日本近代銀行制度の成立史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------